

【担当教員名】 市島民子他		対象学年	3	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要】 脳性まひによる障害は運動障害が主体であるが、近年の産科学や新生児医学の進歩により、重複障害が増えてきている。発声言語面や摂食嚥下に限らず、知的発達から広くコミュニケーションに関わりへと変化してきた言語聴覚士の取り組みについて学ぶ。 さらに演習では、これまで学習した言語発達障害に関する総合演習として、面接、検査、診断、治療の一連の流れを学習する。					
【学習目標】 1. 脳性マヒ ・脳性麻痺の運動特徴について理解する。 ・脳性麻痺に由来する言語聴覚障害の特徴を把握し、訓練および援助の方法を学ぶ。 ・言語発達障害の治療・援助に必要な検査・診断技術を習得する。 ・種々の言語発達障害の特徴と問題点を把握する。 2. 言語発達障害のまとめ					
回数	授業計画又は学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1～7	総合演習	言語発達障害に関する総合演習			演習
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所>
教科書					
参考書		小児の神経と発達の診かた リハ医学全書脳性麻痺	前川喜平 五味重春	新興医学出版社 医歯薬出版	
その他の資料		S－S法言語発達遅滞検査			
【評価方法】 平常の学習状況 定期試験		【履修上の留意点】 ・分担講義となる予定			